

平成 24 年度 第 1 回 土橋自然観察教育林連絡協議会議事録

開催日時：平成 24 年 4 月 18 日（水） 19：00～21：00

開催場所：厚沢部町図書館 視聴覚室

出席者：森（稔）、沓掛、森（英）、藤八、尾山（以上農林商工課）、協議会員 6 名

事務局：中井、朝倉、森（理）、石井、水本

議事要点

(1) 業務割振表の作成

コーディネーター、教育委員会、農林商工課の業務分担がわかるような一覧表の作成

(2) 記念植樹地の対応周知

ヒバの会に記念植樹地の取扱い（草刈り等の積極的な施業停止）について報告し理解を得る。

(3) レク森講座第 2 弾講師候補

鮫島惇一郎先生を第一候補として検討する。

(4) ヒノキアスナロ人工林除間伐事業

林床の植物調査を行う。

体験事業を組み入れながら実施する。

(5) 展示館前シラカバ後継樹

シラカバを後継樹として選定する。

(6) トドマツ危険木、遊歩道崩壊箇所の対応

4 月 28 日（土）13 時 30 分から現地視察を実施する。

トドマツ危険木の取扱いについては野鳥の会の意見を聞く。

協議事項 1 平成 24 年度土橋自然観察教育林関係事業計画

1. 教育林コーディネーター活用事業

会員 A：外部から見ると、業務内容について管理者とコーディネーターの担当や責任の割り振りがわからない。

石井：業務割振表をつくる。

2. 教育林巡回監視事業

会員 A：コーディネーターが休みのときの対応はどうなっているのか。

石井：巡回監視員対応としている。基本的に監視員が週 3 回程度、コーディネーターが土日に重点的に巡回を行っている。

3. 土橋自然観察教育林管理事業

会員 A：記念植樹したところはどう管理するのか。

石井：基本的に草刈などを行わない。

会員 A：記念植樹はヒバの会の方々が関わっているので周知すること。

石井：そのようにする。

4. 植物モニタリング調査

会員 A：植物のモニタリングの公表は行わないのか。

石井：希少植物を対象としているため保護の観点から公表は行わない。

会員 B：調査対象地は？

石井：2005 年に佐藤謙先生が調査した地点に野村前コーディネーターが確認した分布地を加えた 62 地点が対象となる。

5. レク森講座開催事業

(1) レク森講座第 2 弾講師・内容選定

中井：内容未定であるレク森講座第 2 弾については、皆さんの意見をうかがいたい。

会員 B：鮫島惇一郎先生に来ていただきたい。高齢なので不安だが。

会員 A：トドマツの種子採取を林野庁の研究者だった鮫島先生が実施した。精英樹を選定した際の、昭和 32～3 年に教育林に来ているのだと思う。

(2) 「インターバル撮影」にかかる講座開催

会員 A：ラン科植物のインターバル撮影調査時に末次さんは来るのか。

石井：撮影をコーディネーターに依頼したいとのこと。

6. レク森観察会開催事業

会員 B：今回もセミの羽化の観察会を行うとあるが、昆虫は野村前コーディネーターの得意分野

だった。新コーディネーターの専門性との関係をどう考えるか。

水本：セミの羽化は恒例行事として実施したいと思っている。自分の専門分野の観察会については予定されているもの以外に実施していきたい。

7. 土橋自然観察教育林連絡協議会運営

森（稔）：4月11月の開催は基本的な線として、それ以外でも随時集まることを考えてやっていけばよい。

会員A：ヒバの会はなぜ協議会に加入しないのか。

石井：何度かお誘いはしているが現在のところ入会の声はない。

8. 教育林パンフレット更新事業

会員B：以前作ったパンフレットは残っていないのか。

石井：ほとんど残っていない状態。早急に新しいものを用意する必要がある。

会員A：夏前にパンフレットを出すことを前提に作業を進める。

森（稔）：内容も変わっていくし、新たな内容を盛り込んで作業を行っていくべきだ。

9. ヒノキアスナロ人工林除間伐事業

会員A：林床の植物の調査が必要。

会員B：施業の効果をみるためにも植物があるなしにかかわらず、調査が必要。

石井：今年度中に実施する。

会員A：人工林を広葉樹林に戻すような施業は実例があるのか。

石井：ないと思う。

沓掛：針葉樹を混交林に戻すことはあまり聞かない。それほど事例が多くないと思われる。間伐をして草本類が生えてくるということは確認されているが、広葉樹が更新してくる保証はない。そのような知識を持っている方は少ないと思う。

会員A：道南林業試験場の方が平成13年のA沢での伐採を行った際にも、十分な検討がなされていなかったように思う。やり方を十分に検討してから行うこと。

沓掛：担当者の説明では間伐木の選定作業を子供たちにやらせることに否定的だったが、選定したのち除伐作業を行うとか、一連の流れをやってみることはよいことだと思う。この森の管理方針との関係があるので私には判断できないが、部分的であれば子供たちに関わってもらうのは良いことだと思う。

会員A：本事業については、子ども達に経験させていく方向で体験事業を組み入れて検討していくこと。

10. 展示間前白樺伐採にかかる後継樹育成事業

森（稔）：シラカバ後継樹については、キャンプ場のイメージの中で決めていきたい。前松橋課長はシラカバの更新を考えていた。協議会ではシラカバ以外の樹種で合意しているのか。

石井：はい。

森（稔）：シラカバ並木がよいと思っている方も多いので、できればシラカバを植えていただきたいと思う。

会員 C：シラカバはセミがつくので教育的によい面がある。

森（稔）：商工観光係としては、シラカバを後継樹としたいと考えている。当面はあの場所の景観としてシラカバ並木が望ましく、現状復帰の方向がよいと思う。

会員 B：環境的にはサワグルミの生育が良いと思うが、強い要望があるならばシラカバでもよいと思う。長く立っていてほしいなら、シラカバではなく寿命の長い樹種がよい。目的がはっきりしていればシラカバでよい。ただなんとなく植えるのは良くないと思う。シラカバは 30 年しか持たない点が心配なのだが。

会員 C：現在のシラカバを植樹した時にはある程度生育したものを植えたはずだ。

会員 A：現時点では後継樹はシラカバでいくということで後継樹の選定を行うこととしたい。

1 2．樹名板設置事業

会員 A：観察会で樹名板を確認していくということか。

石井：観察会以外にも、全部の樹名板を確認する機会を設けるべきと思う。

情報提供「北海道フラワーソン 2012」への参加の提案

会員 B：フラワーソンはヒバの会の I さんが何度か参加しているはず。レク森を庭のように見ている方だったら参加しやすいのではないか。

石井：I さんと相談しながら参加を検討する。

その他

1．懸案事項等

(1) トドマツ危険木について

会員 A：野鳥の会などで採餌木として切らないでほしいという要望があるので、クマゲラの会の H さんなどに意見を聞いたらどうか。

(2) 遊歩道斜面崩壊について

(3) 上記 2 点の懸案事項については、平成 24 年 4 月 28 日（土）13 時 30 分から、協議会員で現地確認を行い、対応を検討する。

2. その他質疑応答

(1) トドマツ母樹標識テープ撤去

会員 A：トドマツの母樹林のラベルをはがした件について、管理簿を入手する予定とのことだったが、その後どうなったのか。

石井：未着手。

(2) 「教育林」の呼称について

会員 A：「レクの森」と「土橋自然観察教育林」という呼称が錯綜し、混乱しているという問題があった。正式名称を使おうということでその点の認識はどうか。

石井：「レクの森」が定着しているので事業タイトルなどには使用している。オフィシャルな名称としては「土橋自然観察教育林」を使用し、使い分けている。

(3) レク森観察会第1弾の講師

会員 B：ヒバの会の名前が開催案内にあったが、観察会とどのようにかわるのか。

石井：こちらから案内同行をお願いした。

4. 現協議会員脱会について

会員 C：レクの森をどう活用するかということで、基本構想策定委員会に参加し、その後、管理計画策定にかかわってきた。もりもり倶楽部を結成し、今日に至る。コーディネーターが役場の方で管理していて2足のわらじで仕事をしていた。我々の意思の疎通がうまくいかない。様似町を参考にして、教育委員会で一本化したらどうか、ということでそのような体制となってきた。もうそろそろ、自分たちの役目は終わったのではないかとということで、これを機会に辞退しようという結論に達したので、協議会員のうち三人は今日限りで連絡協議会を脱会させていただきたいと考えている。協力を惜しまないつもりですので、これからもよろしくお願いいたします。

以上